

## 舞鶴公園の濠

中央区城内7外

用途:公園

完成:17世紀初頭(福岡城)

所有者:福岡市



梅雨明け間近から夏にかけての早朝に、蓮は音を立てて咲くと言う。舞鶴公園の濠では、ピーク時には600もの花が咲き揃うと言うから、つぎつぎと音を立てて開花する様は天上の鼓のようなことであろうか。その瞬間を見聞きできなくても、濠一面、緑の蓮の葉に被われた景色は、初夏の風物詩としてすがすがしい。何より、濠の手前に余計な構などないのがいい。後ろの土手までずっと自然がつながって視界を遮断しないから、空間に広がりを与え、気持ちにゆとりと安らぎを与える。蓮の季節の前には、花菖蒲、菡萏と花が替わり、時の移ろいを見せてくれるのも都会にあってはうれしいことだ。見えない努力がこの景観を支えているのであろう。これからも市民の目や耳を楽しませて欲しいものである。(審査委員 三浦 佳世)



## 特別表彰

### 美しい奈多海岸づくり

主催者:奈多植林会

奈多松原の復元を目指し、苗木の植樹をはじめ、雑木の除去や草刈等の作業を行っている。これらの活動を通じて地域住民の環境意識の高揚と連帯感の向上を図っている。



玄界灘に面する奈多の海岸線は、かつて白砂青松の自然環境に恵まれた地であった。奈多植林会は、松くい虫で消滅の危機にある松林を救おうと、周辺住民が参加して平成11年から苗木の植樹をはじめ、雑木の除去、下草刈等の松林保全活動に取り組んでいる。寒風の2月、毎年二、三千本植えられている松苗は、美しい景観を次の世代へプレゼントするであろう。また、遊歩道の整備や小鳥の巣がけなどの活動は、自然とのふれあいの場を提供するだけでなく環境意識の啓蒙にも役立っている。昨年10月にはこの松原で、釜山市民が参加した日韓交流の植樹が実施されたという。美しい松林を取り戻そうと始まった住民活動の今後を期待したい。(審査委員 中村 敬子)



### 東区花火大会

東区花火大会実行委員会

東区御島崎の海岸で行われている花火大会及びその翌日の地域ぐるみの清掃活動を通じて、住民の親睦を図るとともに環境問題を意識した地域づくりを目指している。



夏の花火はどこにでもある。たとえば長岡まつり大花火の正3尺玉は日本最大級。東京湾の大華火は尺5寸玉10発、尺玉150発など13,000発と密度が高い。福岡のおおほりまつり花火は昭和25年以来、地域に親しまれ定着した。夏の風物詩をスポンサーとして提供することは社会貢献であり、花火は都市文化を演出する重要な役者である。東区花火大会がユニークなのは、地域住民の募金によって実現した点である。海岸の埋め立てで取り囲まれた海面を舞台に光と音が交錯する。楽しみにしている住民も多く、今後対岸で展開されるアイランドシティでも、この花火がまちづくりの求心力になると期待される。こうして真夏の夜の夢は、住民で「在る」ことの彩りを添えている。(審査委員 落合 太郎)

